



® 平成 30 年 5 月 25 日 (金)

No. 14695 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (33) … (1)

☆フラッシュ (特許庁人事異動) …………… (8)

地域における観光と知的財産の関連性 (33)

東京理科大学大学院 経営学研究科

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

30. 岩手県盛岡市 (商標権、特許権)

今回は貧血に悩む若い女性たちに大人気の「南部鉄器 (なんぶてつき)」の故郷、岩手県の県庁所在地である盛岡市をみてみよう。

近年、ヒジキの栄養素の代表的成分である鉄分の数値が大幅に下方修正された。理由は、ヒジキ自体に鉄分が含有されているのではなく、鉄鍋で調理さ

れる課程で鉄分がヒジキに吸収されていたことが判明したからという。鉄鍋や鉄瓶で調理や湯沸しをすることで、昔の日本人は多くの鉄分を摂取していたのである。今、貧血に悩むアジアでは卵形などの鉄を鍋に入れて調理することを推奨する国も出ている。

日本に鉄鍋や鉄瓶を普及させてきたのが「南部鉄器」である。どのような背景でこの地で誕生したのだろうか。



Patent Attorneys
KUZUWA & PARTNERS
葛和国際特許事務所

			所長	弁理士	葛和	清司*			
副所長	弁理士	塩崎	進			弁理士	杉江	頭一	
	弁理士	木村	伸也, Ph.D.			弁理士	小田切	美紗	
	弁理士	矢後	知美*			弁理士	松浦	綾子	
	弁理士	大栗	由美			弁理士	千野	子	
	弁理士	木羽	邦敏			弁理士	高河原	子, Ph.D.	
常任顧問	技術顧問	前田	正夫			中国弁理士	鄭	益鴻	
			R. Sankaran, Ph.D.						

* 付記弁理士登録済

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目24番1号 西新宿三井ビルディング17階

TEL 03(5321)6761

FAX 03(5321)6760

E-Mail info@kuzuwa.com URL <http://www.kuzuwa.com>

(1) 地理

盛岡市は、岩手県の内陸部、北上盆地のほぼ中央部に位置している。市内の中心部では雫石川と中津川が最上川に合流している。中心市街地からは奥羽山脈に属する岩手山(北西)、駒ヶ岳(西)、早池峰山(東)のほか、独立峰の姫神山(北)、南昌山・東根山(南)などを望むことができる。これらの山々は「街のランドマーク」となっている。面積は東京23区の約1.4倍あり、豊かな自然環境に恵まれ美しい景観を有する地域である。

図1：盛岡市の地図



多くつくられ、「手代森遺跡」から「大型遮光器土偶(国指定重要文化財)」といった祭祀(さいし)の道具が出土している。

西日本で稲作を基盤とした弥生文化が誕生すると、その影響は東北北部まで及んだ。「向田遺跡」や「手代森遺跡」からは弥生時代前期の砂沢式の高坏や壺がまとまって出土している。

②古墳・奈良・平安時代(1700年前～900年前)

4世紀(約1700年前)以降の古墳時代になると、盛岡周辺は北海道を中心とした縄文時代的な「続縄文文化」と、東南北部以南の大型古墳を作る「古墳文化」の合流点となった。その証拠として「永福寺山遺跡」や「薬師社脇遺跡」では続縄文文化的な墓穴に、続縄文文化の土器と古墳文化の土器(土師器)や鉄製品、ガラス小玉などが一緒に副葬されていたのである。

その後、稲作が広まっても気候が冷涼だった東北北部は大型古墳がつくられることはなく、畿内を都とする律令国家の勢力外であった。このため、人々は「蝦夷(エミシ)」と呼ばれていた。

その族長は「末期古墳」と呼ばれる小型の円形古墳に葬られた。「高館古墳(飯岡地区・盛岡市指定史跡)」や「永井古墳群(玉山地区)」の外、「上田蝦夷森古墳群(上田地区)」からは「鉄兜(岩手県指定文化財)」が、「太田蝦夷森古墳群」からは「和銅開珎」、「帯金具」、「勾玉」、「ガラス小玉」が出土している。当時の蝦夷が政府と交流を持ちながら暮らした社会と考えられている。

8世紀後半、「志波村」との表記が文献にあり、盛南開発地区の発掘調査でも多くの蝦夷の集落が発見されている。

平安時代初頭の803年に桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が北東北経営の拠点として太田・本宮地区に広大な「志波城(国指定史跡)」を造営した。志波村の範囲は「斯波郡」、雫石川以北は「岩手郡」と呼ばれた。10世紀には、「林崎遺跡」や「大宮遺跡」、「大島遺跡」などで、地元蝦夷系豪族の大型建物群跡が発見されている。

③平泉期・鎌倉時代～江戸時代(900～200年前)

11世紀には、この地で蝦夷系勢力のリーダーとなった安倍氏が奥六郡と呼ばれた岩手県中北部の統率者となったが、「前九年合戦(1051年

(2) 歴史^{1,2}

①旧石器・縄文・弥生時代(約8万年前～1700年前)

盛岡市内の最古の遺跡は「小石川遺跡」である。約1万3000年前の旧石器時代の地層から、槍の先につける石器(尖頭器)が見つかった。また、最古の土器は「大新町遺跡」から出土した「爪形文土器」である。約1万1000年前の縄文時代草創期のものだ。

約5000年前から始まる縄文時代中期になると、美しい「大木式(だいぎしき)」の土器が作られた。

約3000年前から始まる縄文時代晩期には、細かい文様の「大洞式(おおぼらしき)土器」が